

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170502827		
法人名	有限会社ASコンサルタント		
事業所名	グループホーム弥生		
所在地	札幌市白石区北郷5条4丁目9番2号 (電話) 011-879-5810		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成19年10月17日	評価確定日	平成19年10月26日

## 【情報提供票より】 (19年9月25日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	9月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	19 人	常勤	11人,	非常勤 8人, 常勤換算12.6人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	3階建ての	1～2階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 25,000 円 暖房費(11～3月) 5,000 円	
敷金	(有) (96,000円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

## (4) 利用者の概要 (9月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1	要介護2	3		
要介護3	2	要介護4	7		
要介護5	5	要支援2			
年齢	平均 83 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	遠藤小児科内科医院、東札幌病院、ドゥケア歯科矯正クリニック
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム弥生の立地環境は、近くに公園、スーパー、小・中・高校もある、閑静な住宅地である。建物は築3年の鉄筋コンクリート3階建てで、余裕のある間取りとなっており、高級感あふれる設備、家具、調度と相俟って、落ち着いた雰囲気を醸し出している。管理者は精神科の看護師としての長い経験を踏まえて、医療との緊密な連携の下、重度で対応の困難な利用者をも引き受け、症状改善の効果を挙げている。設立当初より地域密着の重要性を認識し、それを理念に掲げていた。町内会の行事に参加し、日常近隣との交流に努め、高校生ボランティアを受け入れるなどのほか、地域住民対象の講習会を開いて啓蒙に努めるなど、地域への貢献にも意を注いでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指摘された、介護計画の見直し期間、感染症情報収集、地域との交流増加、出納明細の毎月送付について、介護計画の見直し期間について実質改善されているが書類上も整備する作業の途上であるほかは、改善がなされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	ガイドブックに基づいて勉強会を行った後、職員全員による原案作成を行い、これを管理者がまとめた。職員により内容の理解に差はあるものの、日ごろの業務を見直し、反省しながらの自己評価作成となっている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議では、自己評価、外部評価、事故とヒヤリハット事例、職員の異動、現場の困難な状況、弥生新聞、レクリエーション、災害対策、認知症への理解などを議題として話し合われている。そこで出された意見が実際の運営に反映されている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	玄関に苦情受付箱は置いているが、投書されたことはない。家族の来訪が多いので、対話の中で意向を汲み取り、信頼関係を築くことに努めている。破壊行為、妨害行為など問題行動については実際現場を見てもらうことによって理解を得るよう、努めている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	収穫祭、盆踊りなど町内会の行事に参加し、祭のみこしの休憩所を提供するなど、日常近隣との交流に努め、さらに高校生ボランティアを受け入れるなどのほか、地域住民対象の講習会を開いて啓蒙に努めるなど、地域への貢献にも意を注いでいる。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりの尊厳ある生活、および地域社会の一員としての生活を保障する、という理念を、介護保険法改定以前、設立の当初より掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム内の要所に掲げられ、またパンフレットなどにも印刷されて周知されている。職員採用時には必ず理念を教育の中心にすえ、日々のミーティングや申し送りで意義の解説をして実践に生かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	収穫祭、盆踊りなど町内会の行事に参加し、祭のみこしの休憩所を提供するなど、日常近隣との交流に努めている。さらに高校生ボランティアを受け入れるほか、地域住民対象の講習会を開いて認知症対応の啓蒙に努めるなど、地域への貢献にも意を注いでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、ガイドブックに基づいて勉強会を行った後、職員全員による原案作成を行い、これを管理者がまとめた。職員により内容の理解に差はあるものの、日ごろの業務を見直し、反省しながらの自己評価作成となっている。前回評価で指摘された点の改善も適切に行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自己評価、外部評価、事故とヒヤリハット事例、職員の異動、現場の困難な状況、弥生新聞、レクリエーション、災害対策、認知症への理解などを議題として話し合われている。そこで出された意見が実際の運営に反映されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	設立当初のころはパンフレットを持って説明に訪問し、最近では市や区の主催する会議、勉強会に参加して、情報交換や相談をしている。	○	今後もオムツや車椅子の支給、生活保護の相談などでさらに積極的に市や区とかかわりを持つようにしてゆきたい、とのことなので、その実行を期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会、来訪が1日おき、ないし週2, 3回と多いので、その時には必ず管理者が対応するなど、対話による報告に重点を置いている。必要に応じて個人別に手紙を出し、出納帳のコピーは毎月送っている。「弥生便り」は季報程度の頻度になっている。	○	「弥生便り」はホーム全体の様子を知らせる手段として重要と思われるので、さらに頻度を高める努力を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受付箱は置いているが、投書されたことはない。家族の来訪が多いので、対話の中で意向を汲み取り、信頼関係を築くことに努めている。破壊行為、妨害行為など問題行動については実際現場を見てもらうことによって理解を得るよう、努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	重度で対応の困難な利用者が多く、職員との相性には極めて敏感なので、ユニット間の異動はもとより、離職も極力防止に努めている。定着度の高い、年配者の採用に心がけている。やむを得ず異動のあった際は、家族にもオープンに説明し、馴染みの職員によって手厚くフォローするようにしている。	○	職員交代のダメージを極力抑えるために、さらに検討を加え、必要に応じて最適な職員に交代するなどの努力をさらに強める方針とのことなので、その努力に期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には多数の外部研修情報を提供し、受講希望を募っている。受講者には勤務調整の便宜を図り、受講料は施設もちである。業務指示よりも自主受講を尊重することによってむしろ受講者は増えている。受講者は報告書提出と共に、カンファレンスで発表して、職員同士で情報を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への参加、大会やフォーラムへの参加によって同業者間の情報交換、交流を行っているほか、市内外の同業者の有志が連絡を取り合って親睦、情報交換、相互援助、空き情報交換などの交流を行っている。また、管理者同士および職員の相互訪問による研修も行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人や家族に見学をしてもらい、安心と納得を得ている。やむを得ず早急な利用になった時には、家族や関係者に来訪してもらって不安の解消に努めている。新しく入居した利用者には職員が頻りに名を呼んで声をかけるなど、早期の馴染みの形成に努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	重度あるいは対応困難な認知症により、意思や感情の表現が乏しい利用者が多い中、顔の表情などで意思判読に努め、喜怒哀楽を共にしている。子どものころの遊びや歌を教わりながら一緒に楽しんでいる。職員は利用者の昔話や知恵に多くを学んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>共にしている。</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表現の困難な利用者が多いので、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向は声をかけての反応や表情から読み取るよう心がけている。また、家族の来訪が多いので、家族と相談したり確認したりして意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成者は、日々の関わりで得た本人・家族の意向など、事前の情報収集と利用者の心身の状態をアセスメントし、課題に沿って原案をつくり、その内容をカンファレンスで話し合っている。計画は家族、および可能な限り本人にも提示して確認を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回、カンファレンスを開き、利用者全員の課題とケアについて話し合っている。状態に変化がある場合は、24時間ケア記録で把握し、家族の意向も取り入れて見直している。同じ状態の時はそのまま継続しているが、まれに見直し期間が、6ヶ月の例もあり、全体的に一定の期間を区切って見直すことも考えているところである。	○	毎月、個々の状態を話し合っているため、個別のケアを見通した内容をプランに載せ、一定の期間を区切って書類上にも反映されることを期待したい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間の医療連携体制があり、各人の病気の特徴をよく理解し、医療とケアを一体的に提供している。家族の意向に沿い、本人がホームの中で点滴や医療処置を受けて改善した例もある。また、家族が宿泊できる居室も用意され、安心して本人と過ごせる環境になっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、月2回の提携医院による往診になっているが、通院の必要な時には状況に応じて同行を支援している。ホームの看護職員は、個々の疾病の特徴を把握し、医療機関と常に連携し、相談できる関係を築きながら適切な医療を受けられるように配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に係わる指針の文書があり、入居時に同意をとっている。ホームが対応できる最大のケアについて説明し同意を得ているが、早い段階での、終末期に向けての具体的な話し合いはなされていない。その近くになってから、方針を関係者で話し合っているところである。	○	今後は、早めの段階に終末期の指針を共有し、利用者、家族、医師など、関係者でのさらに踏み込みこんだ話し合いを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を尊重し、制止や命令の言葉を言わない、個々の希望に耳を傾ける、という姿勢を日々の関わりや会議で確認している。個人記録などは名前が分からないように、シートで持ち歩き、普段は鍵のかかる書庫に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の大体の流れは決まっているが、個別の望みに対応するよう心掛けている。散歩は利用者その日の気分によって出かけるので、それに合わせて同行し、買い物、散髪、郵便局等への外出希望があった場合には、出来るだけ待たせないようにし、柔軟に支援する努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の好みを取り入れ、当日に決めている。調理の下ごしらえや片付けなど、出来る力を引き出し、盛り付けも色彩の工夫で食事が楽しめるように力を入れている。必要な人に食事を介助をしながら職員も一緒に食べ、会話を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日用意されており、基本的には午後から開始している。1日おきに入る利用者にも対応し、できるだけ個々の希望に沿うよう話し合っているが入浴を嫌がる利用者には声かけの工夫で、週に1-2回は入れるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の力が発揮できるような場面をつくり、食事準備、掃除、洗濯物たたみなど、利用者が自分の仕事として積極的にしていることに、必ず感謝の言葉を伝えている。楽しみごとは、趣味の継続は能力的にも難しくなり、遠出の行事や外食が気晴らしになっている		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームでは、健康を維持するためにも外気に触れることを大切にしている。天気の良い日には、利用者の希望や気分に沿って行き先を決め、散歩、買物など、日常的に外出を支援している。また、遠方へ車で外出の用事がある時には利用者を乗せ、ドライブの楽しみを作っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	頻繁に外に出る利用者がいて、目を離せない状況にあるが、日中は鍵をかけないことに努力している。外に出る気配に注意し、警察署にも協力を依頼する中で連携しながら安全に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルがあり、夜間の災害も想定し、職員に周知徹底を図っている。消防署の協力を得て避難訓練を年に1回実施しており、利用者の参加で具体的な訓練になっているが、さらに、地域を巻き込んでの訓練を呼びかけているところである。	○	現在、運営推進会議で町内会との合同訓練を呼びかけており、それに向けて町内会の連絡網を整備中とのことなので、さらなる取り組みを期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の24時間ケア記録を使用し、摂取量や水分量を把握している。嗜好を献立に取り入れ、各ユニットの調理師が中心になって栄養バランスにも配慮している。時々カロリー計算を行なっているが、栄養バランスについての専門的なチェックを受ける体制にはない。	○	今後は、さらに管理栄養士の専門的な目で見てもらい、献立について定期的に話し合う連携を期待したい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式キッチンには壁の仕切りがないので、居間は明るく全体を見渡せるようになっている。脱衣場には取り外しができる暖房機があり浴室との温度差がなく、入浴が楽しめるように用意されている。居間には個々が持ち込んだ愛用の玩具や人形等が飾られており、住まいとしての意識を高めるような環境を工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みのある家具や生活用品が用意され利用者の安心できる空間となっている。希望者には仏壇の持ち込みも受け入れ、毎朝、仏壇にご飯をあげるのを職員も手伝うなど、個人の満足が得られるように配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。